

2018年5月11日

日揮株式会社

2018年3月期

決算説明会における質疑応答（2018年5月10日）

※決算説明会開催日（2018年5月10日）時点の情報に基づく内容です。

1. LNGマーケットやLNGプロジェクト遂行に関わる当社キャパシティ

<p>現在、世界各地域で計画されているLNGプロジェクトに対する当社の方針を教えてください。</p>	<p>先日EPC契約を調印したLNGカナダプロジェクトについては、年内のFIDならびに受注計上を見込んでいる。また、2017年7月にEPC契約を調印した米国ジョージア州 LNG プロジェクトについては、当初の予定通り、2019年中にFIDならびに受注計上に至ることを期待している。また、米国のゴールデンパス LNG プロジェクト、モザンビークの陸上 LNG プロジェクト（エリア4）、アフリカ西海岸におけるFLNGプロジェクト等に注力している。他にもロシアの複数の計画や、パプアニューギニアのトレイン追加等、世界全体で、構想段階を含め数多くのLNGプロジェクト計画があり、それぞれの実現可能性を慎重に見極めつつ、戦略的に受注活動を行っていく。</p>
<p>当社のLNGプロジェクトの遂行キャパシティについて教えてください。</p>	<p>LNGプロジェクトだけに社内リソースを集中させれば、受注タイミングにもよるが、3～4件のLNGプロジェクトを並行して遂行することも可能だと思う。しかし、当社はLNG以外のオイル&ガス分野、インフラ分野を含めたバランスのとれた事業ポートフォリオの構築を目指しており、LNGプロジェクトのみにリソースを集中することは考えていない。</p>

2. 一部案件での採算の悪化

<p>2018年3月期第4四半期において、一部の案件で採算悪化があったとの説明があったが、該当する案件やそれぞれの採算悪化額について教えて欲しい。また、それら案件については工事損失引当の対象となったのか？</p>	<p>アルジェリアにおける案件、一部海外子会社の案件である。個別プロジェクトの採算に関する具体的な損失額については説明差し控えさせて頂くが、工事損失引当金の残高が2018年3月第3四半期末時点から2018年3月期末時点で増加しているのは、これら案件によるものである。</p>
<p>採算が悪化したアルジェリアの案件の状況について、もう少し具体的に教えて欲しい。</p>	<p>原油・ガスの増産と燃焼処理されているガスを回収することを目的に、井戸元にある設備を改造する複雑な工事で、かつ運転中の既設設備からガス漏れが頻発し、安全に配慮して慎重に工事を進めていく必要があることから、コストおよびスケジュールを見直した結果、2018年3月期に追加費用を計上した。</p>
<p>採算が悪化したアルジェリアの案件に関し、進捗状況と、完工時期の見通しについて教えて欲しい。</p>	<p>2018年3月末時点での進捗は4割程度である。対象となる複数の井戸元設備毎に納期が設定されており、一部は納期遅延となるが、プロジェクト全体としては当初予定通り2020年度半ばに完工すべく、鋭意努力している。</p>

3. 2019年3月期業績見通しについて

<p>ゼロマージン案件の比率低下による粗利水準の改善を見込んでいたが、2019年3月期の業績予測上は、あまり改善が見られない。その要因は何か？</p>	<p>ゼロマージン案件の比率が減少傾向にあるのは事実だが、新たに採算が悪化した案件が出てきたことにより、粗利益水準が当初想定していたほどにはなっていない状況である。</p>
<p>外国税額オフセットができないために税負担が増加するとの説明があったが、もう少し具体的に教えて欲しい。本件は新たに発生した問題なのか？来期以降も、同様の問題が発生するのか？</p>	<p>海外でのプロジェクト遂行に際し発生する外国税に関し、当社ではこれまで外国税控除制度を適用することで二重課税を避けてきたが、今期については外国税控除の限度額を超過し二重課税を避けられない状況となっている。一部不採算案件の影響で外国税額控除における控除限度額が圧縮されることが主な理由である。また、外国税額控除の適用基準が徐々に厳しくなっているという背景もある。</p>

	来期以降については、現時点で今期見通しのような極端に大きな税負担が発生することは見込んでいない。
--	--------------------------------------------------

4. 2020年3月期業績見通しについて

2020年3月期の売上高の見通しについて教えて欲しい。2019年3月期の受注目標1兆円を達成すればトップラインは上がっていくとみて良いか？	現時点で、2020年3月期の売上高の見通しについて明確なことを申し上げることはできないが、過去3年間の受注高は3,000億円から5,000億円台の水準に留まり、特に2016年3月期の受注が3,206億円と大きく落ち込んだことの影響はあるかもしれない。
2020年3月期の粗利益率の見通しについて教えて欲しい。不採算案件の影響がなくなり、改善すると考えて良いか？	現時点で、2020年3月期の粗利益率の見通しについて申し上げることはできないが、現在のゼロマージン案件の比率は確実に低下していく。遂行中案件、ならびに今後受注する案件で着実に利益を出していくことで、9%から10%の水準に回復すべく努力する。

5. その他

受注環境が改善しているとの説明であったが、受注時利益率も改善傾向にあるのか？	ランプサムプロジェクトにおける粗利益率水準10%程度というスタンスを引き続き保っていく。
貸借対照表上、未収入金が増えているが、イクシスプロジェクトにおける発電設備サブコンに関わる建て替え費用が該当するのか？	ご理解の通りである。

以上